

おてら

常例十六日講
毎月十六日午後一時より
お経練習・法話会

写経会
毎月第二・四火曜日
午後一時より

先祖への供養は私への供養

秋彼岸法要会

九月二十日～二十六日

二十三日(土・祝)

彼岸中日法要

午前十一時より

おときは中止致します

二十四日(日)

永代経法要

午後七時より

お彼岸中にお墓参りをしましょう

ご本尊様にもお参りいたしましょう

領解

蒲原 霊英

春彼岸の前に、長男がご本山で得度して参りました。ここから僧侶としての人生が始まります。そのお札参りも兼ねて、四月末に、子供達を連れて親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要に参拝して参りました。思い返すと、私は、高校二年生の夏休みに得度した後、さらに大学院の時に教師(住職)資格を取得した後でさえも、浄土真宗の教えを真に理解していなかったと思います。いや、頭で理論的に理解できていたとは思いますが、具体的なものとして腑に落ちていなかったのです。でも、辛い事や大変な事、失敗も挫折もしたり、結婚して子供を産み育てたりと、色々な経験をしていく中で、「ああ、親鸞聖人が説かれたお念仏のみ教えとはこういうことだったのか」と、ある頃からストンと胸に落ちた感じでした。これが、「仏の教えを身をもって解る」という、いわゆる仏教の「領解」というものです。

残念ながら、頑張ったからと言って思い通りにいくわけでもなく、ましてや神頼みで上手くいくわけでもない。かと言って、何もしなければ何も生まれないし何も起こらない。とにかく、次から次へと色々な事がこの身に降りかかって来る。そんな中いつしか、どんな結果であろうとも、どんな事が起ころうとも、「これもご縁、これも阿弥陀様のおはからい」と受け取らせていただけるとなりました。一番大事な自分の命の始まりと終わりでさえも自分の思い通りにいかないのだから、その間の自分の人生も推して知るべし。であれば、やる事をやったら、後はじたばたせず、すべて阿弥陀様におまかせさせていただけば良いのです。阿弥陀様はいつでも私の側で見護ってくださり、そして、最後はちゃんと浄土という仏の国に迎えてくださる。「こんな科学の発達している世の中で、何をほざいているんだ」と、笑われる方も多いかもしれませんが、逆に、仏様が居るとも居ないとも、お浄土が在るとも無いとも証明されていません。であれば、阿弥陀様が居られ、お浄土が在ると信じさせていただいた方が、私は気が楽です。全部引き受けてくださる方が居られ、命の行き先も決まっているとすると、後は、やれるだけ精一杯今の自分の命を生かさせていただけば良いだけなのです。何とありがたいことでしょう。だから、南無阿弥陀仏は感謝のお念仏なのです。宗教や信仰なんて実生活には何にも関係ないと思われるかもしれませんが、自分の人生の拠となる、一番大切なものだと思います。

合掌



新盆法要



八月五日夜七時から、護持会主催の新盆法要が営まれました。今年は、久しぶりに参拝者の人数を制限せずに執り行われました。

参拝者の方々は、開式前に献灯し、読経中にご法名が読み上げられると順次焼香。住職によるお盆の由来や繋がるいのちの尊さ等の法話の後、記念品とお供物の下付がありました。

長く患って亡くなられた方、突然亡くなられた方、短命の方、長命の方。新盆を迎えるにあたり、改めて故人の人生を振り返りながら、改めてくださったみ教えを味わい、ひるがえ翻して私の中の生き方を見つめさせていたたく、良い仏縁となつたのではないでしようか。

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年 慶讃法要御満座の御消息



この度の親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要を厳肅かつ盛大にお勤めすることができましたのは、仏祖のお導きはもとより、僧侶・寺族・門信徒など有縁の方々のご懇念の賜と心より感謝申し上げます。

私たちが浄土真宗のみ教えを確かな依りどころとして生きることができなのは、親鸞聖人が『顕浄土真実教行証文類』(教行信証)を著され、『仏説無量寿経』に説き示される阿彌陀如来の本願名号の真実の教えを明らかにされるとともに、聖人のみ跡を慕う多くの先人方が、み教えに生かされる喜びを今日まで大切に伝えられてこられたからに他なりません。

私たちは阿彌陀如来の智慧の光明に包まれ、照らし出されることによつて、今まで気づかなかつた罪業深重・煩惱具足という自身の姿とともに、如来の広大な恩徳を知らされます。そして、このような私たちが、如来に慈しまれていと同時に私の悲しみを如来の悲しみとして受け入れていただけることを知信すること、自身の悪業煩惱を心から慚愧し、少しでも執われの心を離れなければならぬと気づかされます。

それは自分だけの安穩を願うような自己中心的な生き方から、人々の苦悩を共にしていく生き方への転換であり、そこから大智大悲という如来のお徳を真実と仰ぎ、それに沿うよう努める念仏者の生き方が開かれていきます。そして、その努め励んでいくままが如来のお徳に促され、ご本願に生かされて生きる姿になるのです。

この度のご法要を機縁として、あらためて「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ」と願われた親鸞聖人のお言葉を深く心に刻み、これからもお念仏を喜び、阿彌陀如来の智慧と慈悲をあらゆる人々に伝えることで、自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に向けて、さらなる歩みを続けてまいりましょう。

龍谷門主 釈専如

